

地理学会ニュース 2025 年度 第 1 号

法政大学地理学会 2025 年 6 月 30 日発行

2025 年度例会（シンポジウム・巡検）の案内

今年度の例会については、シンポジウム・巡検ともに秋に開催する予定です（シンポジウムは 10 月、巡検は 11 月開催予定）。例会の詳細は本年第 2 号（2025 年 9 月発行予定）にて案内します。
（集会委員会）

法政大学地理学会定期総会

法政大学地理学会定期総会は、2025 年 5 月 10 日（土）11 時より、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲート 6 階 G601 教室にて開催された。加藤美雄常任委員長による開会の辞のあと、議長に隅拓渡会員、書記に吉岡美紀会員、議事録署名人に吉原圭佑会員を選出して以下の議題に入った。議題 1～8 については、いずれも常任委員会より提出された原案が承認された。

（出席者 16 名、委任状 35 名、計 51 名により総会成立）

議事

1. 2024 年度事業報告

加藤美雄常任委員長より以下の事業報告について報告があり、承認された。

1) 2024 年度定期総会の開催、および 2025 年度定期総会の開催準備

法政大学地理学会 2024 年度定期総会は、2024 年 5 月 11 日（土）開催し、常任委員会より提出された原案が承認された（出席者 19 名、委任状 38 名）。

定期総会では法政大学地理学会の大塚一雄副会長による講演『高等学校における地理教育の変

遷と授業実践』、および 3 件の一般研究発表が行なわれた。

2) 機関誌『法政地理』57 号（2025 年 3 月 20 日発行）と法政大学地理学会ニュースの発行（年 4 回発行）

- ・「法政地理」57 号は紙碑、特別講演、論説 2 編、研究ノート 1 編、フォーラム 3 編、文献紹介 2 編などを内容とし、総頁 110 頁であった。
- ・法政大学地理学会ニュースを以下の通り発行した。

第 1 号 2024 年 7 月 1 日発行

第 2 号 2024 年 10 月 1 日発行

第 3 号 2024 年 12 月 15 日発行

第 4 号 2025 年 3 月 23 日発行

3) 例会について

・2024 年度第 1 回例会

第 1 回例会（日帰り巡検）は 2024 年 6 月 2 日（日）に、日本大学地理学会との共催で「近代日本の発展とその素地を東京首部の巡検から読み解く」とのテーマで開催し、24 名（うち法政大学地理学会からの参加者 17 名）参加。案内者は山形大学名誉教授で、本学の兼任講師でもある八木浩司氏。内容は東京駅の駅舎から丸の内の再開発、さらに江戸城周辺から半蔵濠、桜田濠、国会議事堂を通り、東京の地形や歴史、都市開発の様相を確認した。

・2024 年度第 2 回例会

第 2 回例会（シンポジウム）は、「地理学から食を考える」とのテーマで、2024 年 10 月 27 日（日）に法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー 13 階の BT1300 室にて開催し、28 名が参加した。シンポジウムでは、川久保篤志氏（東洋大学教授）、湯澤規子氏（人間環境学部教授）、佐々木達氏（文学部准教授）、佐藤秀夫氏（人文科学研究科地理学専攻博士後期課程）の 4 氏の報告があった。その後に参加者全員で全体討論（パネルディスカッション）を行い、さ

まざまな観点から個々の報告に対する質問や相互に関わる質問が出され、活発なディスカッションが展開された。

4) ホームページの管理・運営

- ・学会開催のイベントごとにホームページにて情報を発信
- ・ホームページの年度毎の内容更新
- ・ニュースレターの内容、「法政地理」誌 55 号までの内容を PDF にて掲載
- ・ウェブサイト問い合わせページの管理や Facebook との連携
- ・学会ウェブサイトのニューアル

5) 会員名簿の管理

2025 年 4 月 1 日現在 会員総数 768 名

- ・名誉会員：6 名
- ・一般会員：246 名（院生 23 名を含む）
- ・学生会員：516 名（学部学生 444 名，通教学生など 72 名）
- ・2024 年度入会者 122 名（一般 8 名（院生 3 名含む），学生 114 名（学部学生 108 名含む））
- ・2024 年度退会者 116 名（一般 10 名（院生 5 名含む），学生 106 名（学部学生 106 名含む））
- ・2024 年度末除籍者 15 名（一般 13 名（院生 0 名），学生 2 名）

6) 選挙管理委員会の設置と評議員選挙

- ・第 3 回常任委員会（2024 年 9 月 11 日）において選挙管理委員を委嘱。
- ・法政大学地理学会ニュース第 3 号（12 月 15 日発行）に投票用紙を同封して選挙を実施。
- ・2025 年 1 月 13 日に投票を締め切り 20 名の評議員を決定した。

7) 法政大学地理学会論文賞選考規程の細則の制定

第 4 回常任委員会（12 月 4 日）において法政大学地理学会論文賞選考規程の細則を検討し，次の通り制定した。

法政大学地理学会論文賞選考細則 2024 年 12 月 4 日制定

第 1 条 本細則は，「法政大学地理学会論文賞選考規程」にもとづいて，選考を行う論文賞選考委員会（以下「選考委員会」という），および，選考委員会が行う選考の手続き等を定めるものである。

第 2 条 選考委員会は，「法政地理」各巻における選考を行う度に組織するも

のとする。

第 3 条 選考は以下に定める手続きによる。

- (1) 委員は候補論文を①独創性，②学術上の寄与，③論文の完成度，それぞれの基準を考慮して，5 点満点で評定を行う。
- (2) 選考委員会において委員の評定の集計を行い，総得点および各委員による評価意見を勘案して，審議に参加した委員の 3 分の 2 以上の賛成をもって受賞論文を決定する。
- (3) 審議に参加した委員の 3 分の 2 以上の賛成を得る論文がなかった場合は，当該巻においては論文賞の授与は行わない。

付則 本細則は，2025 年 4 月 1 日から施行する。

8) その他

2. 2024 年度決算報告

前々英明会計委員長より以下の決算報告がなされた。

(1) 一般会計

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
会費等	1,200,000	1,401,000
出版補助金	150,000	150,000
雑収入	20,000	100,513
前年度繰越金	1,811,076	1,811,076
収入合計	3,181,076	3,462,589

【支出】

消耗品費	20,000	27,802
印刷費	1,300,000	1,048,665
郵送費	20,000	27,075
委員会運営費	150,000	30,490
特別活動援助費	120,000	100,000
支部活動援助費	10,000	0
情報化関連費	6,000	6,890
雑支出（予備費）	3,0000	33,466
次年度繰越金	1,525,076	2,188,201
支出合計	3,181,076	3,462,589

(2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
雑収入	0	588
前年度繰越金	4,371,438	4,371,438
収入合計	4,371,438	4,371,474

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
雑支出	10,000	590
委員会運営費	30,000	0
研究奨励給付金	1000,000	100,038
次年度繰越金	4,151,011	4,191,081
支出合計	4,291,011	4,291,599

3. 2024 年度監査報告

木村成彦監査・小山伸樹監査より「会計は適正に処理されている」とする監査報告があり、上記2の決算報告とともに承認された。

4. 2025 年度事業計画案

加藤美雄常任委員長より以下の事業計画案が提起され、承認された。

- 1) 2025 年度定期総会の開催、および 2026 年度定期総会の開催準備
- 2) 機関誌『法政地理』58 号（2026 年 3 月発行）法政地理学会ニュース（4 回発行予定）の刊行
- 3) 例会、巡検、シンポジウムの開催
- 4) 学会ウェブサイトおよび facebook の管理・運営など
- 5) 会員名簿の管理
- 6) 支部活動の援助等
- 7) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業
- 8) 法政大学地理学会 論文賞の選考と授与
- 9) 学生会員の親睦活動の補助（会員の継続などを依頼）
- 10) その他

5. 2025 年度予算案

前杵英明会計委員長より以下の予算案が提起され、承認された。

(1) 一般会計	
【収入】	〈予算〉
会費等	1,200,000
出版補助金	150,000
雑収入	20,000
前年度繰越金	2,188,201
収入合計	3,588,201
【支出】	〈予算〉
消耗品費	20,000

印刷費	1,100,000
郵送費	20,000
委員会運営費	100,000
特別活動援助費	120,000
支部活動援助費	10,000
情報化関連費	6,000
雑支出（予備費）	30,000
次年度繰越金	2,152,201
支出合計	3,558,201

(2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉
雑収入	0
前年度繰越金	4,191,081
収入合計	4,191,081

【支出】	〈予算〉
雑支出	10,000
委員会運営費	30,000
研究奨励金給付費	100,000
次年度繰越金	4,051,081
支出合計	4,191,081

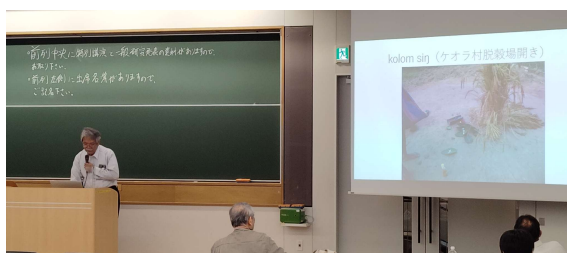
2025 年度評議員会の記録

2025 年度定期総会に先立ち、2025 年 5 月 10 日（土）10 時より、評議員会が BT1300 にて開催された。前杵英明会計委員長（佐々木達庶務委員長の代理）の進行で、2025 年度評議員会議事の説明が行われた。出席者は事前委任状提出者が 5 名、当日の出席者は 7 名であった。

2025 年度定期総会時における 特別講演・一般研究発表

2025 年 5 月 10 日（土）の 2025 年度定期総会の開催に合わせて、法政大学市ヶ谷キャンパスの富士見ゲート 6 階 G601 教室にて、同日の 13：00～14：30 の時間帯に特別講演が、また、15：00～17：10 の時間帯に一般研究発表が開催され、43 名の参加者がありました。

特別講演と一般研究発表の演者ならびに演題



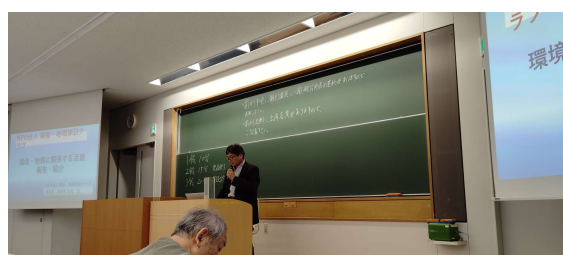
長田氏による特別講演



奥野氏による発表



特別講演中の長田氏



松尾氏による発表

は以下のとおりです。

<特別講演>

長田俊樹氏（総合地球学研究所名誉教授・神戸市外国語大学客員教授）：インド少数民族
ムンダ人の世界

<一般研究発表>（発表順）

奥野 充ほか：フィリピン北部イラヤ火山の
完新世テフラの AMS 放射性炭素年代。（座
長：前杵英明）

松尾 宏：環境・地理に関する活動報告・
紹介。（座長：前杵英明）

久我谷溪太：資料紹介 全国文化財総覧：全
国遺跡出土地震痕跡データセット。（座長：
前杵英明）

原田良博：市川市を楽しく歩きましょう（市
川街歩きの会）（座長：小原丈明）

天野佑紀：長野県における清酒業の産業構造
と存立要因（座長：小原丈明）

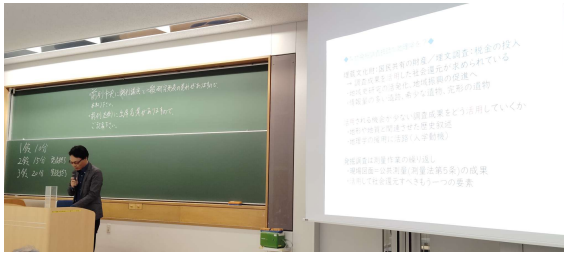
木下雅夫：ホンジュラス国マルカラのコーヒ
ー生産者（座長：小原丈明）

特別講演の演者である長田氏はインドにある
ムンダ語を専門とする言語学者ですが、農耕な
ど言語以外の諸事象から幅広く南アジアの文化
や文明について研究されています。今回の特別

講演でもインドの少数民族であるムンダ人に焦
点を当て、ムンダ人の食文化や儀礼、農具を通
じて、彼らの生活について紹介していただきま
した。特に、ムンダ人の生活に関わる植物と地
名の関係性について解説され、ムンダ語での地
名は「地形+植物」といった複合語が多いとの
ことでした。これらの内容は地理学にも関わる
事柄であったので、講演後には活発な質疑応答
が展開されました。

また、講演の冒頭では自己紹介を兼ねて長田
氏にはムンダ語の研究者に至る過程についても
話題提供していただいたので、研究者がどのよ
うにして特定の研究対象地域に深く関わるよう
になっていったのかという観点からも非常に興
味深い講演でした。なお、長田氏の特別講演の
内容は『法政地理』第 58 号（2026 年 3 月発
行）にて掲載されますので、詳細はそちらをご
覧ください。

一般研究発表では、最初の奥野氏による発表
ではフィリピンのバタン島にあるイラヤ火山に
よる堆積物に対する放射性炭素年代測定の調査
が実施され、完新世にテフラが残る規模の噴火
が少なくとも 5 回起こっていたことが明らかに
されました。また、考古遺跡からの出土物によ
って同定される遺跡の年代とテフラの形成時期
との対応関係についても検討がなされ、調和的
な結果が得られたとの報告がなされました。



久我谷氏による発表



天野氏による発表



原田氏による発表



木下氏による発表

次に松尾氏による発表では、松尾氏が参加・主宰している「NPO 法人 環境・地理探訪クラブ」の取り組みについての報告がなされました。同クラブでは地域の問題・課題に対しての調査・探求や巡検を活動の基盤としており、具体的にはネパールの支援活動を行っている OK バジ氏の講演会や水害地域などの水環境問題に対する調査が定期的に行われているとのことでした。そして、それらの調査等で得られた知見を基に提言や提案を行うとの実践的な取り組みについても報告がなされました。

3 件目の久我谷氏による発表では、同氏が仕事で用いている全国文化財総覧の全国遺跡出土地震痕跡データセットについて紹介がなされるとともに、そのデータセットに記載されている地形や地質の情報を地理学の研究に活用することの可能性について検討がなされました。それぞれで作成された埋蔵文化財発掘調査報告書の PDF データがこのデータセットを通じて公開が進めば、そこに記された地形や地質の情報は地形学や地震研究、歴史地理学の研究に活用できる可能性があるものの、それら報告書は地震痕跡の調査を目的とするものではないために地、かならずしも地理学に関連する記載があるわけではなく、また、自治体によって本データセット事業への協力の温度差があるために掲載数が少ないことから、現状では本データセットのみ

では地理学の研究には十分には活用するのは難しいことが指摘されました。

4 件目の原田氏による発表では、同氏が創設し主宰する市川街歩きの会の取り組みについて報告がなされました。市川市の地理的条件や位置関係についての概説がなされた後、同市を 4 つの地域に区分して、それぞれの地区についての街歩きルートとそれら地区の地理的な情報についての解説がなされました。同会には 1,400 名を超す会員が所属しており、その取り組みは地元の新聞に掲載されるなど活発な様子が伺えました。同会の取り組みは地域住民向けの実践活動に位置づけられるかと思いますが、それらの地域的な取り組みを地理学的に分析することも可能かと考えます。

5 件目の天野氏による発表では、データ分析や聞き取り調査結果を基に、日本の清酒業界が衰退傾向にあるにもかかわらず多くの清酒メーカーが存続する長野県の清酒製造業について、その産業としての特色や存続要因についての分析がなされました。分析の結果、メーカー間での経営戦略に差異があり、棲み分けが生じていた点や、酒造組合などの組織によって形成されたネットワークのよって情報共有や人材育成が行われ、各メーカーの競争力が支えられてきた点などが明らかにされました。

最後の木下氏の発表では、ホンジュラスのコ

ーヒー生産における近年の取り組みについて報告がなされました。小規模農家が生存戦略として、穀物栽培から商品作物であるコーヒー豆栽培へと転換を図り、また、それら小規模農家がコーヒー会社を設立し、フェアトレードに参入することで付加価値を高める工夫がみられるとの指摘がなされました。

今回の一般研究発表では、近年の中では多い6件の発表が得られました。とりわけ、一般会員による発表が多かったのが特徴的でありました。これまで折に触れてお伝えしていますように、学術団体である本会の活動の基盤は会員、特に一般会員による研究活動や教育活動、実践活動などの取り組みの発表・報告やそれに対する意見交換にあります。したがって、多くの一般研究発表がなされた今回は非常に意義深いものであったかと考えます。また、それぞれの発表の内容も学術研究や実践活動など多岐にわたっていましたので、その意味でも本会の趣旨に合致しており、有意義であったかと思えます。来年度以降の一般研究発表におきましても、会員の皆さんによる積極的な参加や発表、活発な議論がなされることを祈念します。

(集会委員会)

地理学教室だより

2025年度がスタートして2ヶ月が過ぎました。毎年入学してくる新入生ですが、やはり学年によって毎年カラーが違います。今年の新入生は例年よりやや人数が多く、活発な学生さんが多いような印象を受けています。大学にはいって5月病にかかって悩んでいる学生が多いと思いきや、話しかけてみると、あっけらかんとして大学生活になじんでいる学生が多いように感じました。ただ、勉強の仕方だけは、高校まで板書を写すだけの受動的な教育に比べ、大学でのノートの取り方や試験勉強の仕方などでは、少々不安に感じている学生も多いみたいです。上級生には筆記具さえもたず、スマホでプレゼン画面の写真だけ撮っている学生もいますが、見習ってほしい慣習です。

また、今年度は新たにお二人の先生を地理学科にお迎えすることになりました。文化地理学の増淵先生と古環境学の福興先生です。お二人の先生

がたをお迎えすることにより、地理学科に新しい風が吹いており、学生たちも大変喜んでおります。

地理学科のOBの方々をはじめ学会の方々には、是非とも学生会員でもある地理学科の学生と接する機会を持っていただきたいと思います。「その時の出逢いが人生を根底から変えることがある よき出逢いを」という相田みつをさんの言葉の通り、先輩方との出逢いが学生の人生に大きな影響を与える可能性があります。その主たる場が法政大学地理学会の例会や大会になると思いますので、後輩のためにも積極的にご参加いただければ幸いです。学科教員としても、学生が参加しやすい環境を整えていきたいと思っています。会員皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

(地理学科主任 前杢英明)

地理学教室 (通信教育部) だより

日頃より、通信教育課程 (以下、通教) にご理解と協力いただいていること、この場を借りて感謝申し上げます。法政地理学会には、通教の多くの学生が法政地理学会へ入会し、積極的に学会へ参加してくださっていると思います。

通教には老若男女様々な経歴をお持ちの方が在籍しており、提出される卒業論文のテーマもオーソドックスなものから斬新なものまで多岐にわたっており、ダイバーシティな人材ならではのバラエティに富んだ内容となっております。通教の学生は、通学課程と異なって対面で触れ合う機会が少ないことから、周囲の学生がどのような卒論に取り組んでいるのかを知ることは難しいかもしれません。そうであるからこそ、ぜひ研究交流や研究発表の場として法政地理学会を活用してほしいと思っております。そして、ゆくゆくは論文掲載を目指して積極的に学会誌への投稿をチャレンジしてほしいと願っております。

今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。

(通信教育課程主任 佐々木 達)

院・地理学専攻だより

2025 年度, 法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻には, 修士課程 6 名, 博士後期課程 2 名, 国際日本学インスティテュート所属の地理学専攻修士課程 4 名が新たに加わりました。総在籍者数は地理学専攻修士課程 11 名, 博士後期課程 10 名, 国際日本学インスティテュート所属の地理学専攻修士課程 5 名ということになります。さらに, 修士課程研修生 1 名, 国際日本学インスティテュート研究生 1 名も在籍しています。

近年, 社会人入試を経て大学院へ入学する院生が増えています。仕事と研究の両立は並大抵のことではありません。私自身, 身を持って体験してきましたので, エールを送るとともに, くれぐれも健康に留意して研鑽を積んでいただければと思います。

(地理学専攻主任 山口隆子)

機関誌「法政地理」第 58 号 (2026 年 3 月発行予定) の原稿募集

編集委員会

2026 年 3 月発行予定の機関誌「法政地理」(第 58 号) の原稿を募集します。学会員ならば誰でも投稿できます。皆さんからの多くの投稿をお待ちしております。投稿希望者は下記の要領で編集委員会までご連絡ください。原稿の種類は論説, 研究ノート, フォーラム, 資料解説, 文献紹介です。

1. 投稿希望者は **2025 年 8 月末**までに, 原稿の種類と予定原稿枚数 (400 字詰原稿用紙に換算) をメールにて編集委員会までお知らせください。
2. 投稿希望者は **2025 年 9 月末**必着で, 当学会の投稿規程に則り, 原稿を送付してください。法政大学地理学会ウェブサイトにある投稿フォームに必要事項を記入し, ファイル一式を添付して提出してください。その際, ウェブサイトから投稿したことを編集委員会のアドレスにもご一報ください。また, 紙媒体 (手書きによる原稿を含む) での提出を希望する場合は, 事前に編集委員会までメールでご相談ください。

編集委員会メールアドレス henshu@chiri.info

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は 2 年以上滞納されたら納付の督促を行い, 3 年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が 5 年に達しますと, 自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては, 住所変更等で学会からの連絡が届かず, 結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら, かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また, 卒業後, 学生会員は一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ホームページより学会メールを利用してお知らせください。

<<会員動向>>

(2025.2.8~2025.6.4 まで. 敬称略, 申し込み順)

【入会】11 名

[一般] 2 名 (福與直人 (東京), 青木邦勲 (東京), 中村拓翔 (東京・院生), 中澤真太郎 (東京・院生), 鈴木沙羽 (東京・院生), 広瀬雄大 (岩手・院生), 堀内雅生 (福岡・院生))

[学生] 4 名 (溝口剛啓 (京都・通教), 新井護 (群馬・通教), 大野なおみ (神奈川・通教), 中山多絵 (千葉・通教))

【退会】9 名

[一般] 9 名 (大西芳徳 (東京), 道明紀彦 (東京), 長池邦雄 (東京), 筑井勇 (群馬), 松永朋樹 (東京), 吉川剛 (新潟), 内田裕貴 (東京), 古川綾子 (東京), 佐藤初美 (千葉))

【除籍】15 名 (2024 年度末 (2024/3/31 付) 除籍 (5 年滞納))

通常払込料金加入者負担への変更について

「法政地理」第 55 号から綴込の払込取扱票が赤色の通常払込料金加入者負担用のものに変更いたしました。この払込取扱票を利用して, ゆうちょ銀行の通帳もしくはキャッシュカードで払込の手続きをすれば, 通常払込料金が無料となります。ただし, ATM でも窓口でも現金で払込手続きをすれば手数料が 110 円かかりますのでご注意ください。

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」の授与について

学会では、「法政地理」最新号に掲載されている論文（論説・研究ノート）の執筆者に、審査により「地理学研究奨励金」を授与しています。執筆者全員に応募を呼びかけます。ぜひ、下記あてに応募されるようお願いいたします。

毎年 6 月末までが申し込みの締め切りです。その後「地理学研究奨励金審査委員会」で審査し 9 月末までに授与者を決定して、常任委員会へ報告し、法政地理学会ニュース 3 号に発表の上、次年度総会で授与する予定です。授与者には、研究奨励金及び賞状を授与します。

執筆者が氏名、連絡先、卒業・修了年度などを明記し、応募論文を PDF 化し添付の上、下記担当に 6 月末日までに応募してください。ただし教員との共著論文は応募の対象になりません。（6 月末に間に合わない場合は、応募の意思をご連絡ください）

担当：法政大学地理学会副会長 大塚一雄
問合せ先：kotsuka415@gmail.com

【法政地理第 57 号訂正】 「法政地理」第 57 号 101 頁

《通信教育課程卒業論文》指導教員：前杵英明
「雲仙普賢岳噴火火砕流および火砕サージ、土石流にともなう植生遷移—衛星リモートセンシングおよび GIS, NDVI, DEM を基に一」（誤）
「雲仙普賢岳噴火火砕流および火砕サージ、土石流にともなう植生遷移—衛星リモートセンシングおよび GIS, NDVI, DEM を基に一」（正）

2025 年 6 月 30 日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>

郵便振替 00170-9-167442